

授業科目	* 公衆栄養学実習					実務家教員担当科目	○				
単位	1	履修	必修	開講年次	3	開講時期	後期				
担当教員	坂田 郁子										
授業概要	<p>公衆栄養学実習は公衆栄養活動を展開できる知識・技術を実習を通して習得する科目である。授業では、集団や地域の健康・栄養改善のために健康・食生活やそれに関わる情報を収集・分析を行い、栄養課題やニーズを明確にし、適切な公衆栄養プログラムを計画・実施・モニタリング・評価・フィードバックするための知識や方法を修得する。また、個人や集団の栄養状態を評価するための食事調査等を行い、結果を適切に評価できる知識や技術を修得する。</p> <p>本実習は実務家教員が担当し、行政における栄養管理の実際も含め演習を実施する。</p>										
授業形態	講義 演習	授業方法	アクティブラーニング（グループワーク、プレゼンテーション）								
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食事調査の種類と特徴を理解し、調査対象者に合わせた食事調査方法を選択できる。（DP1-2）</li> <li>2. 食事調査を実施・解析・評価し、栄養指導ツールが作成できる。（DP1-2, DP2-1）</li> <li>3. 対象集団や地域の健康・栄養問題特性を把握し、適切な社会資源を活用した公衆栄養プログラムを作成することができる。（DP2-1, DP3-1）</li> <li>4. 公衆栄養活動を説明できる。（DP5-1）</li> </ol>										
理想的レベル	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 調査対象者に合わせた食事調査方法を選択でき、食事調査を実施・解析できる。</li> <li>2) 対象集団や地域の健康・栄養問題特性を把握し説明できる。</li> <li>3) 公衆栄養活動について説明できる。</li> </ol>										
評価方法・評価割合											
評価方法	評価割合（数値）					備考					
試験											
小テスト											
レポート	50%										
発表（口頭、プレゼンテーション）	30%										
レポート外の提出物	20%										
その他											
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	-	DP5	○	ナンバリング	NT22106J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安 （時間）	

地域で行われている公衆栄養活動を調べまとめる。	0
授業計画	
第1回	<p>テーマ：公衆栄養学実習の意義</p> <p>公衆栄養活動における公衆栄養アセスメントから公衆栄養プログラム作成までの手法を説明する。公衆栄養アセスメントの一つである食事調査（国民健康・栄養調査）の手法を修得する。</p>
第2回	<p>テーマ：食事調査の実施・評価</p> <p>国民健康・栄養調査の分析・評価及び、食物摂取頻度調査を実施する。</p>
第3回	<p>テーマ：地域診断と公衆栄養マネジメント</p> <p>地域の人口動態、保健統計情報を収集し、地域の特徴・問題点を整理する。</p>
第4回	<p>テーマ：公衆栄養アセスメント①</p> <p>既存資料、健康・栄養情報を収集し、地域診断でえられた情報と併せて地域の健康・栄養状態を把握する。</p>
第5回	<p>テーマ：文献検索</p> <p>公衆栄養活動に関する文献を検索し、公衆栄養活動を理解する。</p>
第6回	<p>テーマ：公衆栄養アセスメント②</p> <p>健康・栄養情報を収集するための質問票を作成する。</p>
第7回	<p>テーマ：公衆栄養アセスメント③</p> <p>質問調査を実施し、集計した結果をまとめる。</p>
第8回	<p>テーマ：公衆栄養アセスメント④</p> <p>地域診断、既存資料等と併せ地域の課題を明確にする。</p>
第9回	<p>テーマ：公衆栄養アセスメントの発表</p> <p>公衆栄養アセスメントで得られた情報を基に健康・栄養の課題を明確し発表する。</p>
第10回	<p>テーマ：公衆栄養プログラムの企画①</p> <p>PDCA サイクルに基づいた公衆栄養プログラムを作成する。</p>
第11回	<p>テーマ：公衆栄養プログラムの企画②</p> <p>公衆栄養プログラムに必要となる社会資源の活用の検討し、公衆栄養プログラムを作成する。</p>
第12回	<p>テーマ：公衆栄養プログラムの展開①</p> <p>公衆栄養プログラムの実施に必要な栄養指導ツールを作成する。</p>
第13回	<p>テーマ：公衆栄養プログラムの展開②</p> <p>公衆栄養プログラムに企画評価、プロセス評価、影響評価、結果評価を含め完成させる。</p>

第 14 回	<p>テーマ：公衆栄養プログラムの発表</p> <p>班で作成した公衆栄養プログラムを発表し、相互評価をする。発表した公衆栄養プログラムの総評を行う。</p>
第 15 回	<p>テーマ：公衆栄養マネジメント</p> <p>公衆栄養マネジメントのプロセスを振り返り、発表した公衆栄養プログラムを完成させる。</p>
テキスト	<p>「公衆栄養学 2023 年版」酒井徹，由田克士（医歯薬出版）</p> <p>「管理栄養士・栄養士必携」公益社団法人日本栄養士会編（第一出版）</p> <p>「日本人の食事摂取基準 2020 年版」（第一出版）</p> <p>※テキストは、授業外学習（予習・復習）にも活用する。</p> <p>★食事調査に必要なので、各自準備しておくこと：デジタル秤，計量スプーン，計量カップ</p>
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<p>「国民衛生の動向」（厚生労働統計協会）</p> <p>「国民健康・栄養の現状」（第一出版）</p> <p>「食育白書」（農林水産省 編）</p> <p>「厚生労働白書」（厚生労働省 編）</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>個人課題、グループ課題はコメントを入れて返却する。</p>
学生へのメッセージ・コメント	<p>課題抽出で統計分析を行うため、2年次の「健康情報処理論」「栄養疫学」「健康情報処理実習」で得た知識と技術が必要です。</p> <p>また、厚生労働省や総務省などが発表している統計資料、特定保健指導等で使用されている有用な媒体等、すでに使用されている社会資源を上手に活用する必要があるため、正確な情報収集能力が必要です。</p> <p>グループワークにより他者との連携・協同の精神を身に付けることも重要であるため、欠席・遅刻は減点します。</p> <p>実習時間中の班での発表については、観察者（クラスメイト）の評価も参考にします。</p> <p>公衆栄養学実習は栄養士・管理栄養士になるための基礎的な科目です。「公衆栄養学 1」「公衆栄養学 2」で学んだ内容を基にしています。これまで学んだ情報処理・栄養疫学も関連します。パソコンを使ったデータ処理に慣れておきましょう。自身の食事を秤量、栄養価算定するなど、食事摂取量の計算にも慣れておきましょう。</p>